

2021年11月10日

厚生労働大臣 後藤 茂之様

## 今季インフルエンザワクチン供給不十分の理由と見通しについて国民への十分な説明を

京都府保険医協会  
理事長 鈴木 卓

貴省発表によれば、今シーズンのインフルエンザワクチンの供給量について、「昨年の使用量と比べると少ないが、例年の使用量に相当する程度が供給される見込み」ただし「製造資材の入手遅延等を受けて、昨年度よりも遅れたペースで供給される予定」としています。9月10日には医療現場に①13歳以上は医師が特に必要と認める場合を除き「1回注射」を周知徹底②必要量に見合う量のワクチンを購入すること等を徹底—することを求める通知が出されました。

一方で、日本感染症学会が前季の感染者数が少ないため集団免疫が形成されていないと指摘し、大きな流行の可能性があるととしてワクチン接種を推奨。さらに、新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえて接種希望者が増えていることもあり、各地で予約が取りにくくなっていると報道されています。

こうした報道もあって、さらに医療機関には問い合わせが例年以上に押し寄せて事務負担が増大し、予約が取れないことによる不満をぶつけられるという事態も起こっています。

当会の会員医療機関に11月5日～10日にかけてアンケート（代議員87人対象、42人が回答）をとったところ、約7割が現時点で「希望者のすべてにこたえられていない」とし、「特に不都合はない」の26%を上回っています。さらに5割以上が対応等で「困っている」と回答。困っている事例として、「希望にこたえられないこと」「問合せ件数が多く事務負担が大きい」「断るための説明に時間をとられる」「高圧的に予約を迫られたり、怒られたりする」といった事態が挙げられています。

ただでさえコロナの第5波とコロナワクチン接種を乗り越えて疲労困憊の医療現場が、このような混乱の矢面に立っています。そこで、以下を要望します。

### 記

ワクチンの安定供給は国の責任です。報道では11月第4週には品薄状態が解消する見通しと貴省は説明していますが、この混乱収束に向けて国民全体に十分な説明を尽くしていただきたい。

また、今後こうした事態を繰り返さないよう、ワクチン供給の在り方を見直していただきたい。

以上